

しちのへユーチューバー業務概要

【導入の目的】 動画を活用した地域活性化

「協力隊自身が七戸町の魅力をSNS・YouTubeで配信すること」と

「町のデジタル化に伴い、町民がネット環境を活用するスキルを身につけられるような活動や地域住民を巻き込んだ配信など町を活性化する活動をする事」

を目的とした事業を協力隊に提案していただきます。

→ 動画をつくる過程で新たな価値を生み出したり、新しい仕事を創出したりすることに期待します。

例1：You tubeで七戸町の魅力を発信。

「ヨソモノ目線」で七戸町の地域資源を発掘し動画を配信。七戸十和田駅に降りた観光客が動画に出ていた場所やお店などを訪れる仕掛けを作る。

「料理」「風景」「インバウンド」など、協力隊が得意とする分野で作成する。

例2：公民館でYoutubeやSNSに関する「親子ユーチューバー講座」の開催。

小学生が就きたい職業第2位(2019年学研調べ)で、子どもは興味がある分野であることから、動画制作を通して子どもの企画力、撮影・編集力、プレゼン力を身に付ける。また、ネット配信する際の注意事項を学ぶ。

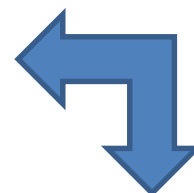
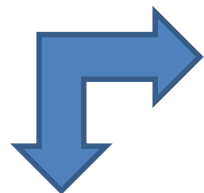
例3：地域企業や会などを巻き込んだ配信をし、町を活性化させる

移住サポーターの会、若者実行委員会など町を活性化させる目的を持つ団体とコラボ動画を作成し、魅力を発信する。

例4：動画制作のグループを立ち上げ、若者の交流の場とする。

動画制作を通して町の若者が集い、また、関係機関との交流の輪を広げ活気をつくる。

しちのへユーチューバーと地域との連携(例)



しちのへ移住サポーターの会

移住者と地元住民とが交流を深めることを目的に活動している団体です。
地元のことを色々と案内してくれます。



しちのへ観光協会

七戸町で新たな旅行商品を開発したりイベントを企画・運営したりしています。

現在、WebサイトやSNSを用いて写真と文字とで取り組みを紹介していますが、新たに動画を活用することで、より深く掘り下げた情報発信ができるものと考えています。
また、動画制作に地域住民を巻き込むことで、町に活気をつくることも期待しています。

- ・七戸町で動画をつくる目的は何か？
- ・これまで撮影した動画は十分、活用されていないのではないか？
- ・動画で地域活性化するには何をしたら良いのか？

ここをよく話し合う

動画をどう作ろう？
どう使うとどんなことができる？

映像・動画に
できること

情報の配信



地域の活性化

どのような状態を「地域が活性化している」というのか？

- ・関係人口が増える
- ・若者が集う
- ・地元にお金が落ちる
- ・その他地域が元気な状態？

例) 農作物のブランディング

七戸町の農作物は美味しい、新鮮、安い
↑付加価値を付ける

- ・農家の栽培の工夫
- ・郷土料理、おふくろの味
- ・食育、野菜の残渣処理

動画に出ていた野菜を「道の駅しちのへ」で買えるよ！

しちのへ्यूーチューバーの留意点

・アカウントについて

協力隊本人がアカウントを作成し使用します。SNSについては町が用意します。

・制作費について

協力隊活動で動画(PR目的の動画広告を含む)を作成し費用がかかった場合、活動費補助金を予算の範囲内で支給します。

なお、撮影中の飲食に関しては自己負担になります。ただし、地元の食材・菓子・飲料などの特産品をPRする目的で購入する場合は必要経費として認められる場合がありますので事前の相談となります。

・動画の撮影、編集、配信について

YouTubeやSNSの配信に当たって撮影スケジュールやマニュアル等を作成し、これに基づいて行うこととなります。

マニュアル例

- ストーリーが起承転結で構成され全体的にわかりやすくまとまっているか
- テロップ(漢字は小学校高学年がわかる程度)を入れているか
- 関係者にYouTubeで配信する許可は得ているか(子どもは保護者の同意も必要)
- 政治・宗教的な表現は無い
- 著作権フリーの素材を使っているか
- 他者を誹謗・中傷する内容ではないか
- 内容に誤りはないか
- 特定の人やものに偏り過ぎていないか 等

しちのへューチューバーの処遇等について

